

製造業のビジネスチャンスが見える
モノづくり最新情報サイト
じゃぱんお宝にゅ〜す
<https://japan.otakaranews.com>

じゃぱんお宝にゅ〜す

モノづくり現場の未来を見つめる
製造業応援サイト
じゃぱんお宝WEB新聞
最新情報満載！好評配信中！

モノづくりは機械とロボットのHarmony

お宝インタビュー！ 三宝精機工業(横浜) 金子一彦社長に聞く！

三宝精機工業は、工作機械レトロフィット、オーバーホール、ロボットシステムの3事業を柱に、長年蓄積してきた経験と技術を生かし、着実にステップアップしている。

「既存の工作機械をレトロフィットし、ロボットを装備して自動化システムをワンストップで提案、具現化できるSIer(システムインテグレーター)は限られる」。

一般に既存の工作機械にロボットを用い自動化する場合、工作機械レトロフィット専門メーカーとロボットシステムインテグレーター専門メーカーが合体して自動化システムを供給する。だが、同社の場合は一社で両方を一貫で行うため、より顧客の要望に最適な自動化システムが構築できる。

「既存の工作機械を使用して自動化したいと考えているお客様は、100%構想が決まっているとは限らない」。

実際、同社に依頼するユーザーには、70～80%組んだ状態で当初の自動化構想を変更してより理想的な自動化を構築する企業が多い。

「お客様の工場で自動化ラインを組むと途中で変更することができない。当社はお客様のご要望を最優先しつつ、お客様がどのような自動化を望んでお

られるか、前後工程を含めてお客様に最適なロボット及び周辺機器を有効活用した自動化をトータルで提案、具現化する」。

一方、同社は新たにリファビッシュ事業も力を注いでいる。同事業は、ユーザーからの買い取り機や中古機械などを整備、再生し、新品に準じる状態に仕上げて販売している。

「オーバーホールは、お客様の機械を新品状態に再生するものだが、リファビッシュは、当社がお金を出して購入した工作機械を、当社の技術を使って再生し、それをお客様に提供している」。



オーバーホールは、個客の仕様に合わせて再生するが、リファビッシュは同社が仕様を決めて再生した工作機械を販売する。

「今期は3台販売したいと思っている。すでに在庫は確保している。本当はコロナでJIMTOFが中止にならな

かったら展示するつもりだった」。

リファビッシュで販売するのは、昌運工作所製精密旋盤やスチューダ万能研削盤といった海外の輸入工作機械などいろいろ。同社の技術で再生することでいずれも現役復帰で活躍するものばかり。

「オーバーホールは、高価な機械だからお客様も定期的に修理をして使う。もう一つは、生産中止になって同じ機械を購入することが不可能な場合など、特長のある工作機械や海外まで修理に出せない輸入機械等いろいろある」。

金子社長曰く、機械メーカーは次々に新しい機械を開発しているため、古くなった機能などを継承せず、常に新しい機能を採用した機械を投入する。だが、ユーザーの中には従来機能の利便性を加工に反映させ独自の製品を製造する企業もまだまだ多いという。そうした企業に対し、レトロフィットに加え、ロボットを活用した自動化システムをセットで提供することで個客の加工現場も生産性を向上できる。

「いまは、自動化を個々の専門メーカーに丸投げするシステムインテグレーターが増えている。当社が提案する自動化は、機械からロボット、周辺治具、NC装置まですべてをワンストップで提案する」。



それは言い替えば、工作機械のハードからソフトまでを知り尽くしている同社だからこそ成せる“業”。

ロボットを活用した自動化は、個客の既存の工作機械の生産性を向上させるだけでなく、作業者の負担軽減、働き方改革など、活用次第で様々なメリットを発揮する。故にSIer選びが重要になる。

<https://www.sanpo-seiki.co.jp>

